月刊 笑
vol. 20
2025年7月25日発行

悠優みふね　施設長　土田（つちだ）　幸博（ゆきひろ）

土田幸博さんは、2024年4月にオープンした悠優みふねの施設長を務めています。2025年4月には有料老人ホームが特定施設の指定を受け、ますますサービスの幅が広がる中、どのような理想を抱いて仕事と向き合っているのでしょうか。職務への考え方や、今後の展望などを伺いました。

入職までの経緯を教えてください。

以前は医療機関に30年間勤めていました。転職を考えていたところ、二十数年来のお付き合いがあった白石理事長から「御船町に施設がオープンするから働いてみないか」とお声がけいただいたのがきっかけです。

白石理事長が、高齢者のデイサービスセンターに障害児を受け入れるという、先進的な取り組みをされていることは以前から存じており、自身の医療機関での経験も活かせると考え、新たなチャレンジをしてみようと思ったのです。そして2022年に、悠優みふね開設の準備室長として入職することとなりました。

現在の仕事内容についてお聞かせください。

悠優みふねは、千寿会が御船町にオープンする初めての施設。まずは地域との関係づくりから始めました。熊本県や御船町への訪問、建築施工業者との打ち合わせ、近隣住民の皆さんとの話し合いなど、ほかの施設の職員にも協力を仰ぎながら進めました。

中でもお世話になったのは、悠優かしまのケアマネジャーである山下さんです。幅広い人脈をお持ちで、熊本市内の事業所への挨拶回りに同行してくださいました。さらに、白石理事長のお母様の実家が御船町という縁もあり、親戚の方々にもご協力いただきました。こうした様々な経緯を経て地域との絆を深めた結果、2024年4月に利用者様の受け入れを開始すると、8月初旬には早くも居室が満室になったのです。これほど早い段階で満室になったのは、近隣の方々、そして千寿会のスタッフの皆さんの力添えのおかげです。本当にありがとうございました。

前職と現職で異なる部分はありましたか。

私は医療職時代の経験を活かし、千寿会全体の労務管理にも携わっています。しかし、医療法人と社会福祉法人では会計などで適用されるルールが違い、書類の名称も異なります。また、医療法人は出資者による資本金で設立されますが、社会福祉法人は営利目的ではないため、資本金は存在しません。慣れないことばかりで、当初は戸惑いを覚えました。

今は理事会の会計報告を担当できる程度まで知識をつけましたが、まだまだ勉強中。外部の研修に参加するなどして学びを深めているところです。

利用者様や職員にどのように過ごしてほしいとお考えですか。

利用者様には「ここに住んで良かった」、職員には「ここに勤めて良かった」と思ってもらえるのが理想。そのために新たな取り組みも始めています。

特定施設に指定されたことを受け、外部のデイサービスが担っていたレクリエーションを2025年4月から施設内で担うようにしました。スタッフは工夫を重ね、体操や外出行事など、毎日違ったメニューを提供し、日曜日には好みの飲み物を選べる「悠優みふねカフェ」も実施。当初は変化に戸惑う利用者様もいらっしゃいましたが、最近は施設内での活動を満喫していただいている方が多いと感じています。

職員に対しては、普段から悩みを聞き、上長と共有して解決に取り組んでいます。人間関係を築く際に大切なのは、頭ごなしに相手を否定しないこと。一旦気持ちを受け止め、相手を理解する姿勢を心がけています。

今後の目標を教えてください。

地域の皆さんとより緊密に交流を図り、拠り所となれるよう努めてまいります。交流の一環として、施設前の通学路に交通指導員と一緒に立って、交通整理を行うことにしました。その交通指導員の奥様が、御船町の介護相談員をなさっているというご縁があるなど、地域との関わりが広がっていることを実感しながら、毎朝声がけをしています。

「千寿会のモットーでもある『笑顔』があふれる施設になれば」と語る土田さん。利用者様、職員、そして地域の皆さんとの輪を繋ぐキーパーソンとして、さらなる活躍を続けてくれるでしょう。

ようこそ悠優かしまへ!

～未来のリーダーをご紹介～

悠優かしまに新たな風を吹き込む、マネージャー候補の荒木さん。
長年の認知症ケアの経験で培われた深い信念と千寿会の理念が織りなすシナジー効果とは?
多職種連携を通じた質の高いケアを目指す荒木さんの想いや、プライベートでの意外な一面に迫ります!

Happy

特別養護老人ホーム悠優かしま

荒木（あらき） 剛史（つよし）さん

これまでの経歴と入職のきっかけ

**経験を活かして新たな挑戦!
理事長の情熱に導かれて**

十数年間のグループホームでの認知症ケアの経験を経て、スキルアップのため特別養護老人ホームへの転職を決意。転職活動中に社会福祉法人千寿会とご縁をいただき、白石理事長との交流を通じて、そのフットワークの軽さや介護への深い熱意に感銘を受けました。
職員の挑戦を尊重し、自らも行動されるトップダウンではない理事長の人柄に強く引かれ、悠優かしまへの入職を決めました。

利用者様と心を通わせる上で最も大切にすること

常にゼロから「向き合う」

介護職として私が常に大切にしているのは、どれほど経験を重ねても、初めてお会いする利用者様には常にゼロから向き合う。利用者様は日々変化され、一人ひとりが異なる個性をお持ちです。**その方が生きてこられた歴史を深く理解し、思いを尊重することこそが、心を通わせる上で最も重要**だと考えています。
私の師は「寄り添うだけでなく、利用者様と『向き合う』ことが真の理解に繋がる」と説きました。「向き合う」とは、利用者様の歴史や背景を知り、本当に求めることを引き出す姿勢です。特に認知症の方へは、病による辛さを理解し、その方の世界に入り込むケアが肝要です。繰り返される言動も病気ゆえと受容し、共感することで、利用者様は穏やかになる。私たちの関わりが、利用者様の安心できる環境を創り出すのだと考えています。

悠優かしまの雰囲気と印象

感謝が飛び交う職場

入職から約3か月が経ち、職場に慣れてきた中で、悠優かしまの職員の皆さんには丁寧にご指導いただき、心より感謝しています。特に印象的なのは、「ありがとう」という感謝の言葉が頻繁に飛び交うこと。職員同士、そして利用者様への自然な感謝の言葉が交わされるこの環境は非常に心地良く、新しい職場での人間関係のストレスをほとんど感じずに業務に馴染むことができました。**この良好なコミュニケーションこそが、利用者様にとっても穏やかで安心できる環境を生み出していると実感**しています。

目指すチーム像

多職種連携の推進

新しい業務に慣れてきたばかりではあるものの、1つの明確なビジョンを持っています。それは、**多様な職種の職員がいることを活かし、それぞれが自由に意見を出し合える多職種連携チームを創ること**。そのためには、職員間のコミュニケーションの深化が不可欠です。積極的に交流し現場課題を解決することで皆さんが働きやすい環境を築き、それが利用者様への質の高いケア提供に繋がると信じています。

休日の過ごし方

ゴルフやキャンプでリフレッシュしています。夜は息子とオンラインゲーム『フォートナイト』に熱中しており、良いストレス発散になっています。子どもには時間制限を設けていますが、私もそれにならって、休日は積極的に子どもと屋外活動を楽しむように心がけています。

「やってみよう」が笑顔を生む!

おすすめのレクリエーション

利用者様の毎日を彩るレクリエーション。
今回は、日々のレクリエーションを盛り上げる職員たちの取り組みや工夫、そして大切にしている想いをご紹介します。

デイサービスセンター
陽光園
緒方（おがた） 弘美（ひろみ）さん

イチオシのレクリエーション

頭と体で、楽しさ広がる!

ホワイトボードを使った穴埋め問題や、部首が「へん」の漢字を挙げていただくクイズです。時事問題をテーマに、言葉のキャッチボールを行うこともあります。体を動かすゲームでは「ガンバルーン」や風船バレーが特に盛り上がります。
また、お話好きな方には、回想法を用いて昔の思い出などを語り合う時間もおすすめです。普段は口数の少ない方が、ご自身の思い出を積極的に話してくださることが、嬉しく感じます。

効果的な声かけのコツ

基本は明るいトーンで、時折方言なども交えながら、まず私たち職員自身が楽しむことです。そうすることで利用者様も自然とリラックスされ、場が和やかな雰囲気になると思います。

やりがいを感じる瞬間

利用者様が笑顔でお話されている姿や、楽しそうな笑い声を聞いたとき、心から楽しんでいる姿をみたとき、やりがいを感じます。

メッセージ message

何よりも大切なのは、難しく考えすぎず、まず私たち職員自身が楽しむことです。その楽しむ気持ちは、必ず利用者様にも伝わると考えています。

デイサービスセンター
陽光園
岩永（いわなが） 千鶴（ちづる）さん

イチオシのレクリエーション

謎解きで思考を活性化!

ホワイトボードを使ったレクリエーションです。穴埋め問題や文字の並べ替え問題などでは、皆さん一生懸命に考えて答えてくださいます。楽しみながら頭の体操ができるため、脳トレーニングがお好きな利用者様に特におすすめです。利用者様が一生懸命に考え、答えが出たときの笑顔と、周りの方々からの温かい拍手で、いつも場が和やかな雰囲気になります。この活動が良い刺激となり、普段は消極的な方からも声が聞かれるのが特徴です。

効果的な声かけのコツ

声掛けは元気で明るい声を基本に、時折方言も交ぜながら行います。「上手くいかなくても大丈夫。やってみましょう」とお伝えし、気軽にリラックスして参加できる雰囲気作りを心がけています。また、スムーズな進行のために、皆様の表情を確認しながら分かりやすく説明しています。

大切にしていること、やりがいを感じる瞬間

私たち職員自身が、心から楽しむ気持ちで取り組むことが、利用者様にも伝わると考えています。そのため、いつも明るく元気に、そして楽しく業務にあたることを大切にしています。特に、普段は活動に控えめな方から声が聞こえたり、笑顔が見られたりしたときに、この仕事の大きなやりがいを感じます。

メッセージ message

まず私たち職員が楽しむことが一番大切です。その気持ちは必ず利用者様にも伝わります。これからも、皆で一緒に楽しんでいきましょう。

チームで届ける食の喜び

悠優みふね栄養課の挑戦

未経験のメンバーで始まった、悠優みふね栄養課。
慣れない業務や意見の相違など、開設当初は困難の連続でした。
利用者様の「美味しい」の一言を原動力に、強いチームワークで乗り越えてきた1年。
見た目にも工夫を凝らす職員たちの奮闘と思いをご紹介します。

悠優みふね 栄養課 宮原（みやはら） 優子（ゆうこ）さん

開設当初の目標

衛生管理の徹底を心がけ、現在も邁進中

悠優みふねでは、クックチル方式で運営している陽光園よりさらに進化した「ニュークックチル方式」を採用。厨房では、スチームコンベクションオーブンやブラストチラーといった専門的な調理機器を使いこなしています。調理後の料理はブラストチラーで急速冷却して安全に保管し、提供時には再加熱カートを利用して温かいお料理は温かいまま、冷たいお料理は冷たいまま、最も美味しい状態でお召し上がりいただけます。
慣れない方式のため、開設当初から「衛生管理と安全の徹底」を目標に、今も日々意識しています。

陽光園で学んだノウハウを活かせたと感じたこと

食卓を華やかにする盛り付け術

陽光園で学んだのは、見た目にもこだわる盛り付けの美しさです。楽しんでいただくには彩りが不可欠。特に行事食などは華やかになるよう、今も栄養課マネージャーに教わりながら研究を重ねています。

チームが直面した最も大きな困難

困難を乗り越え、強まった結束力

メンバー全員が初対面だったため、最初は自分の考えをどう伝えればよいか分からず苦労しました。しかし、何かあるたびに話し合い、意見を尊重し合うことで結束が強まったように思います。

栄養課のメンバーとして大切にしていること

「見て楽しく、食べて美味しく」を追求

千寿会のモットーである「見て楽しく、食べて美味しく」を念頭に置き、適切な衛生管理を行い、栄養満点の食事をおいしく食べていただくことです。自分で納得できるところにはまだ到達できていないため、今後も知識と経験を蓄積し、改善を重ねていきます。

自慢の行事食！

悠優みふね 栄養課 城本（しろもと） 安由美（あゆみ）さん

開設当初に心がけていたこと

「安全で美味しい食事を」胸に、駆け抜けた手探りの日々

開設当初は調理を担当するパート職員が私1人だけ。何もかもが手探りで、まずは安全で美味しい食事を作ることだけを考えていました。理想を思い描く余裕もなく、必死に役割を果たそうという思いでした。

苦労や困難の乗り越え方

ひとさじの工夫で、誰もが食事を楽しめるように

オープン当初は困難の連続で、作業を円滑に進めるため提案や声かけをしながら必死に乗り越えました。特に、利用者様一人ひとりに合わせた食事形態の変更には大変さを感じています。嚥下機能が弱い方にも食事を楽しんでいただけるよう、安全に配慮しつつ、味は常食に近づける工夫をしています。

やりがいと難しさを感じること

行事食への歓喜の声と、職員同士の衝突

調理が好きなため、日々の業務は楽しく感じています。特に花見弁当を作った際に「食べるのがもったいない」というお声をいただけたときは、大きなやりがいを感じました。一方で、職員同士で意見がぶつかるときは難しさも感じます。私は正職員とパート職員の間に立ち、潤滑油のような役割でサポートできたらと考えています。

一緒に働く皆さんへメッセージ

絆を深め、ご利用者様に喜ばれる食事を提供していきましょう

ご利用者様に喜ばれる食事を作るには、チームワークが不可欠です。行事食で皆様に喜んでいただけたとき、チームの絆が深まったと確信しました。2年目はこれまで築いたものを土台に、より良い環境を整えていきたいと思います。スキルアップを目指して頑張ります！

悠優みふね 栄養課 戸高（とだか） 由夏（ゆか）さん

開設当初の想いと最も印象深いエピソード

未経験の介護食で緊張からのスタート

未経験からのスタートで当初は緊張と戸惑いの連続でしたが、仲間のサポートとチームワークに救われました。準備が間に合わないとき、全員で助け合い時間内に終えられた経験は特に印象的で、「チームってすごい」と心から思いました。「美味しい」というご利用者様の声が日々の喜びになっています。

利用者様に安心して楽しんでいただくための工夫

栄養課マネージャーの指導のもと味も見た目も美しい料理を提供

味や固さだけでなく、目で見て楽しんでいただける盛り付けを心がけています。例えば嚥下食では、エビの形をゼリーで再現するなど、普通食と同じように楽しめる工夫をしました。おせち料理では「きれい！もったいなくて食べられない」と大感激していただき、本当に幸せでした。

チームを作り上げていく上で最も大きな困難

大変だからこそ深まるチームの絆

難しさを感じるのは、時間との戦いである行事食です。限られた時間で全員の息を合わせ、作り上げるたびにチームの絆が深まるのを感じます。

利用者様への想いと2年目の目標

喜びの声を励みにさらなるレベルアップを

「本当に美味しいね」というお声が増えたことが嬉しく思います。2年目の目標は、味や見た目など、すべての質をさらに高めること。利用者様の笑顔をもっとたくさん見ることができるよう、頑張ります。